

令和7年度 小平市立小平第三小学校 学校評価報告書

学校教育目標 ○考える子（よく聞き、よく考え、よく判断し、自ら行動できる子）
 ◎やさしい子（互いの立場や相手のよさを認め合う思いやりのある子）
 ○元気な子（健康で、生き生きと活動できる子）

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 (1)こどもが生き生きと活動する学校 (2)学びの場にふさわしい教室環境の整った学校 (3)家庭・地域に理解され、協力を得て信頼される学校 (4)教職員が互いに高めあい、協働する学校
【目指す児童・生徒像】 (1)基本的な生活習慣を身に付け、自立心を育てる (2)互いに助け合い、思いやる豊かな心を育てる (3)ねばり強く最後までやり通す気持ちを育てる
【目指す教員像】 (1)「よいところをもっとよく」を基本に実践を進める。(2)「豊かなふれあい・確かな児童理解・きめ細かな指導」を徹底する

前年度までの学校経営上の成果と課題
【成果】学習指導や生活指導については肯定的なアンケート結果が出たことから、日常的な教員の関わりや支援体制の成果が出ていると考えられる。
【課題】いじめ対策については引き続き本校の取り組みの発信が必要である。保護者会や学校だよりなどとおしていじめ防止についての情報を伝えていく。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	デジタル教材を効果的に活用した授業を行い、児童の学力を向上させる。	3	3	デジタル教科書やデジタルドリルを活用した授業や家庭学習について全校で活用した。	3	3	地域保護者アンケートで93%の方の肯定的な意見が見られた。授業を参観するとICTを活用し児童が積極的に授業をしている様子が見られた。否定的な回答をした少数の児童も把握し指導の改善を図っていく必要がある。	コラボノートやデジタル教科書の効果的な活用ができた。学年間、学級間でも指導方法の情報共有をし、多くの児童が分かる授業を展開できたと考える。引き続き、OJTなどを通して、学習指導力をブラッシュアップしていく。
	OJT研修会を学期に3回程度設定する。若手が学びたいと考えている内容の研修も計画する。	4	3	OJTを水曜日の16時30分から位置付けたことで、若手教員や本校初年度の教員もデジタル教科書の使い方や学級経営などを学ぶことができた。	4	3		若手教員の困り感に応じた研修などを実施し、成果評価のポイントで前期よりも4をつける教員が増加した。来年度も継続していく。
健全育成	いじめ調査を毎月行い、対策委員会を実施する。教員間で配慮の必要な児童の情報を共有する。	4	3	ふれあい月間のアンケートから児童の困り感を把握し、いじめの始まりを捉え、未然に対応することができた。	4	3	具体的方策をいじめの解消率にしたことで成果評価が可能になった。いじめが起こったときの対応や未然防止の取り組みは、保護者会やホームページ等で周知していく。	日頃からいじめは起こりうるものと考え、全教職員が未然防止に努めたり、素早い情報共有と初期対応をしたりすることができた。解消せずに継続している家庭とは、連絡を密にしながらか安心して学校生活を送れるように対応していく。
	特別活動を推進し、居心地の良い学級・学校づくりを行う。	3	3	教職員全員で、学級会の基本的な進め方の共通認識を行った。「折り合い」を大切に話合い活動を進めることで、児童の考えを大切にしたり取り組みができた。	3	3	不審者の対応や交通安全の指導を徹底していく。	学校行事や学級でのイベント、係活動等で、自己有用感を高める活動を推進することができた。たてわり活動や児童集会など児童が自主的に運営する機会を定期的に提案していく。
健康づくり	縄跳び週間やドッジボール習慣などで体を動かす楽しさを実感できる機会を提供し、継続した運動習慣につながるように指導する。	3	3	前期はドッジボール週間や児童集会を通して運動の機会を提供することができた。後期は縄跳び・マラソン週間の期間を長く設定し、より多くの運動習慣につながるようにする。	3	3	運動旬間後のアンケートでは、評価が高まっている。各学期に1回は実施し、年間を通して体力向上に努められるように計画してほしい。	ドッジボール週間など、全校的な取り組みの機会をきっかけに普段外で遊ばない児童についても運動に親しむことができた。一方、身体を動かすことに前向きになれない児童も一定数いるので、引き続き学校全体、学年、学級など、様々な単位の集団で取り組みを継続していく必要がある。
	保健指導や日頃の学級活動を通して、睡眠時間や食生活の大切さを指導していく。	3	4	身体計測の前に養護教諭による保健指導を行っている。睡眠時間や食生活については家庭と連携して進めていく必要性を感じている教員がいた。ほけんだよりや給食だよりで家庭へも周知していく。	3	3		学級閉鎖が続いた時期がみられた。放送などで換気を徹底することで効果があった。次年度も手洗いうがいの指導を引き続き行っていく。
コミュニケーション	地域教育コーディネーターやPTA等と連携を図り、地域の人材を活用した学習を行う。	4	3	生活科や総合的な学習の時間を中心に外部人材を取り入れた学習を計画的に行った。	4	3	花いっぱいボランティアや読み聞かせ、総合的な学習の時間等の見守り等で地域ボランティアの方が活躍している様子がうかがえた。	学校の教育活動の中で、教育効果が高まる場面でゲストティーチャーやボランティアに参画してもらえるように体制を整えていく。
	ホームページの学校日記で学校の様子を各学年週に1回以上更新する。	3	3	昨年度よりも情報発信について保護者や地域の方の評価が高まった。引き続きホームページやスクールメールで紹介していくことで、充実を目指す。	3	3		後期もホームページやスクールメールを通して発信することができた。地域行事がある際は学校から積極的に情報発信していく。
働き方改善・業務改革	EA、SSS等支援スタッフの活用や業務の精選により負担を軽減する。	4	3	エデュケーションアシスタントやスクールサポートスタッフなどと協力し、業務の仕分けができた。引き続き業務改善を図っていく。	4	3	先生が児童と向き合える時間を大切にしながらも、働き方改革を推進していった。	エデュケーションアシスタントやスクールサポートスタッフなどの活用だけでは、業務が改善されたと考えない教職員が見られた。来年度は、行事の見直しや留守番電話設定の時間変更など具体的な業務改善を図っていく。
	目標達成に向けた教科間の関連性を意識した年間学習計画を利用し、業務改善を図る。	3	3	概ね達成しているが、学年間によって成果に差がある。研修等を通してカリキュラムマネジメントについて教員に周知を図る必要がある。	3	3		教科間の関連性を意識した年間指導計画を活用し、効果的な指導、業務改善に役立った。